

エゾカオジロトンボ

Leucorrhinia intermedia

トンボ科



エゾカオジロトンボ。右上は正面から見た顔

名前の由来

北海道の顔の白いトンボ。「トンボ」については、東北地方でトンボのことを「ダンブリ」「ドンブ」などといい、「ドンバ」→「トンバウ」→「トンバ」→「トンボ」となったのでは、という説がある。また「飛ぶ棒」が変化したものという説もあるが、「棒」が漢語であり、古代日本語としては不適切との指摘がある。漢字名：黄蜻蛉

特定種

国レッドリスト (2007) : 準絶滅危惧 (NT)

北海道レッドデータ : 絶滅危急種 (Vu)

形態的特徴

体長36~45mm程度。顔面が鮮やかな乳白色をしている。翅の基部の体色が赤い。オスは成熟しても腹部の黄色斑が残る。メスの翅には橙色斑があるが、ほとんどない個体から先端まである個体まで変化に富む。

類似種と見分け方 : カオジロトンボ。エゾカオジロトンボのオスは成熟しても腹部の黄色斑が消えないが、カオジロトンボのオスは成熟すると黒化し、第7節を残して消失する。

生息環境・分布

主に平地から丘陵地の、森林の挺水植物が茂る腐植栄養型の池沼や、湿地林に接する滞水などに生息。羽化後はかな

り移動し、遠くの丘や尾根筋などで姿が見られるという。

分布 : 世界中で釧路地方と十勝地方のみに生息する。

食性・他生物との関わり

幼虫時期はユスリカやイトミミズ、魚の稚魚、オタマジャクシなどの水中の小動物。成虫になるとカヤハエなどの昆虫類やクモ類を捕食する。

幼虫は魚類やカエルなどに捕食され、成虫になるとムシヒキアブなどの肉食性昆虫やクモ類、カエル類、大型のトンボ類、小鳥類に捕食される。

繁殖生態・寿命

成虫は5月下旬から8月初旬ころまで見られる。成熟したオスは水辺に戻り、挺水植物や岸辺の倒木、石、地面の上などに体を密着させてとまり縄張りを持ち、時々占有領域の上をパトロールする。交尾は水辺に隣接したカンボク林

や草地で見られることが多く、かなり離れた林でも見られるといい、交尾時間は1.5時間以上という記録があるという。産卵はメス単独で連続打水して行う。寿命 : 2~3年。卵期間は約10日、幼虫で2~3回越冬。

興味深い話

- 標茶町の天然記念物に指定されている。
- 十勝地方のアイヌ語で、トンボ類を「ハンクカチュイ」という。

配慮事項

池や沼の中に水草が生えていることが大事。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵期・幼虫期	幼虫で2~3回越冬											
成虫期												

参考文献

「蝦夷の蜻蛉」 広瀬良宏・伊藤智 自費出版 1993
「北海道のトンボ」 二橋愛次郎 エコネットワーク 2002
「日本産トンボ大図鑑」 浜田康・井上清 講談社 1985
「日本産トンボ目幼虫検索図説」 石田勝義、北海道大学図書刊行会 1996
「北海道のトンボ図鑑」 広瀬良弘・伊藤智・横山透、いかだ社 2007

「トンボのすべて」 井上清・谷幸三 トンボ出版 1999
「名前といわれ 昆虫図鑑」 栗林慧・大谷剛 偕成社 1987
「コタン生物記Ⅲ 野鳥・水鳥・昆虫篇」 更科源蔵・更科光、法政大学出版局 1977
「北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック」 (ウェブ版) 北海道 2003 <http://rdb.hokkaido-ies.go.jp/>

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チヨウ
ウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原)
鳥類
樹林